



東日本大震災から10年。ケーブルテレビ各局の取り組み

ケーブルテレビは地域と共にあり、地域の人々の安全・安心を守る情報発信に努めています。東日本大震災から10年。被災地のケーブルテレビは、復旧、復興の日々を記録・発信しながら地域の人々と共に歩んでいます。また、全国のケーブルテレビ各局は、被災地の状況を伝えて支援するとともに、その教訓を得て地域の防災・減災に係る取り組みの推進、情報発信を行っています。

この時期における当連盟会員事業者各局による制作番組の一例を紹介します。ケーブルテレビはこれからも地域の暮らしを支える情報を発信してまいります。

◆日本ケーブルテレビ連盟東北支部（支部長局：岩手ケーブルテレビジョン）

「～震災から10年 被災ケーブルテレビ局が伝える～ 今、奏でるメッセージ」(58分)



三陸ブロードネット、気仙沼ケーブルネットワーク、宮城ケーブルテレビ、仙台CATV、大崎ケーブルテレビ、J:COM仙台の6局による共同制作。地元で活躍するシンガーソングライターをナビゲーターに、制作局各地の復旧復興に向けた活動などを紹介する。全国のケーブルテレビ130社以上で放送決定。

◆気仙沼ケーブルネットワーク（宮城県）

「あの日から10年、伝えたい気仙沼の今」(2部構成)

第1部「あの日からの想い」(96分)では被災経験の語り部や復興に向けて活動する人々を紹介し、第2部「変わりゆく気仙沼」(112分)は、気仙沼の町が復興して行く風景やプロジェクトの進行を伝える。



◆三陸ブロードネット（岩手県）

「私たちは生きる。～記憶つないで、思い紡いで～」(30分)

震災から10年が経過し、「震災の記憶を忘れることなく、伝え続けるために何ができるか」被災経験の継承に取り組む市民の活動を伝える。



◆秋田ケーブルテレビ（秋田県）

「走れ！高所作業車！秋田と気仙沼200kmの絆」(15分)

東日本大震災で甚大な被害を受けた気仙沼ケーブルネットワーク。復旧のために貸し出した秋田ケーブルテレビの高所作業車によって、両局は固い絆で結ばれた。



◆ダイバーシティメディア（山形県）

「to Revive」(15分シリーズ全17番組)

被災地を訪ね、被災者や避難者の声を届けながら、震災を忘れることなく現状を伝えて行く。2014年から制作した全17番組を全国に配信中。



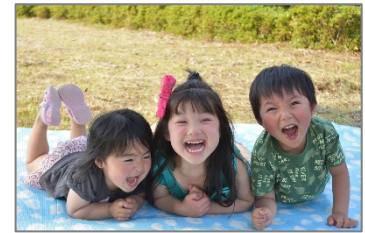
◆ジュピターテレコム（東京都）

「震災アーカイブ 未来へつなぐ 語り部の声」



3.11 メモリアルネットワークの協力により、震災の語り部の活動を映像化。下記の特別サイトで公開中。

<https://www.jcom.co.jp/corporate/csr/shinsai/>



「こども特番 震災をこえて～みんなでつくる地域の未来～」(90分)

「宮城の子どもたちが伝えたい震災」をテーマに、子どもたちがどのように震災を受け止め、未来をイメージしているのかを考える特別番組。

「ここで、生きる ～ 911、311、そしてコロナ禍～」(60分)

アメリカ同時攻撃事件の被災者である映画監督・我謝京子が、'11年から取材を続けた、東日本大震災で被災した女性たち。世界が困難に直面する今、彼女たちは「ここで、生きる」思いを、いかに語るのか？「311:ここに生きる」('11)の続編新作ドキュメンタリー。



◆イツ・コミュニケーションズ（東京都）

「東日本大震災音楽家復興支援コンサート 第8回バチカンより日本へ 祈りのレクイエム 2021」

3/12Bunkamura オーチャードホールで開催するコンサートを収録。モーツァルト「レクイエム」、ベートーヴェン「第九交響曲」演奏予定。

◆広域高速ネット 296（千葉県）

「296 ニュース」東日本大震災から10年(特集コーナー)

3回にわたって震災経験に学ぶ特集をエリアニュースの番組内で放送する。

「～被災者たちの軌跡～」 「～地域を守る自治体の取り組み～」

「～命を守る防災アイテム～」



◆伊那ケーブルテレビジョン（長野県）

「佐藤浩信の10年 ～福島県から伊那に移住した果樹農家の軌跡～」(30分)



震災を受けて伊那に移住した果樹農家・佐藤浩信さん。

原発事故の影響を受けた福島の果物を復興しようとチャレンジを続けている。

移住してから現在までの佐藤さんの軌跡を追った。

「言葉で紡ぐ明日 ～東日本大震災 10年の節目～」(90分)

伊那に避難、移住してきた被災地の人たちと当時の話や現在の取り組み、未来への思いを語る。コロナ禍で苦しむ今、そしてこれからの社会のあり方にもスポットを当てる。



◆キャッチネットワーク（愛知県）

「東日本大震災 10年 あの日から学ぶこと わたしたちの明日へ」(45分)



あの日のできごとを伝え続ける人たちは、地震・津波の恐ろしさや備えの大切さをわたしたちに語りかける。市民の防災に関するアンケートや地域の取り組みもあわせて紹介し、いつ発生するかわからない巨大地震への備えを考える。

「三河凸凹地形さんぽ」(30分)

1945(昭和20)年1月13日に起きた「三河地震」。その痕跡をたどりながら三河地域をぶらりお散歩。足元の凸凹した地形から、歴史や地震のメカニズムを紐解く。



◆京丹波町ケーブルテレビ（京都府）

「東日本大震災から10年そして、未来へ～双葉町と京丹波町強い絆で支えられて～」(制作中)
友好関係にある両町の町長が対談。双葉町の復興状況や教訓を得た京丹波町の安全安心への取り組み、深めてきた絆を確認し、未来に向けたまちづくりへの思いを語る。

◆ケーブル4K（ケーブルテレビ共通4K専門チャンネル）

「一陽来復 Life Gose On」(60分)



©2017 Kokoro Film Partners

制作：心の復興映画製作委員会、日本ケーブルテレビ連盟東北支部
震災から6年目の宮城・岩手・福島で、前を見て生きる人々の姿を追ったドキュメンタリー。忘れない、でも前に進む。復興に立ち向かう日本の力を伝える。

このほか、ケーブル4Kでは、連盟東北支部共同制作による過去2年分の3.11特別番組を一挙放映する。

～本件に関するお問合せは、下記までお願いいたします～

一般社団法人日本ケーブルテレビ連盟 <<http://www.catv-jcta.jp>>

コンテンツ部 担当：原・中田 TEL:03-3566-8200 FAX:03-3566-8201

E-mail:jcta_contents-lab@catv.or.jp